

マイナー・スウィング

ジャンゴ・ラインハルト

ソロ・ギターの
しらべ 至上のジャズ・アレンジ篇

難易度

C

孤高のギタリスト、
ジャンゴの名演をギターのみで再現

CD
Track

33

「MINOR SWING」 Music by Django Reinhardt and Stephane Greppelly
© EMI MUSIC PUBLISHING FRANCE S.A.
Permission granted by EMI Music Publishing Japan Ltd.
Authorized for sale only in Japan

20世紀前半に活躍したギタリスト、ジャンゴ・ラインハルト。18歳の時、ヤケドにより左手の薬指と小指が麻痺するが、残った3本の指で独自のジプシー風ジャズ・ギター・サウンドを確立した。この「マイナー・スウィング」は彼の代表作で、何度もレコーディングされているが、ここでは1937年の、彼が所属していたフランス・ホットクラブ五重奏団による演奏をベースにアレンジしてみた。

基本的には、サムピックを付けた親指によるミュート・ベース(写真1)に、アドリブ・パートを含むメロディを乗せる形。バックینگが淋しいようなら、ひとつ上の弦(ベースが5弦ならその上の4弦)を、コード・ネームを参考にして加えてみると良い(例えばコードがAmなら5弦開放・A音+4弦2f・E音)。

①人差指によるストローク。アップ・ストロークは指の頭と爪の両方(写真2)で、ダウン・ストロークは爪で行なう。

● 奏法ポイント ●

●写真1



サムピックを使用して、ミュートしながらベースを弾く。

●写真2



“指頭→爪”の順で当てるのではなく、両者が同時に当たるようにやや斜めにする。

Capo=5f

79